

# 株式会社 東京精密 2017年度(平成30年3月期) 第2四半期 決算説明会

2017年11月14日  
株式会社東京精密  
代表取締役社長CEO 吉田 均

\*

◆ **将来の事象に係わる記述に関する注意**

- 本プレゼンテーション資料及び当社代表者が口頭で提供する情報は、現時点で入手可能な情報をもとに、当社が合理的であると判断した一定の前提に基づいております。
- これらは、市況、競争状況、半導体業界ならびに自動車関連業界等の世界的な状況を含む多くの不確実な要因の影響を受けます。
- 従って、今後の当社の実際の業績が、本プレゼンテーション資料における記述及び当社代表者が口頭で提供する情報と大きく異なる場合がありますことをご承知おき下さい。

◆ **表記データについて**

- 本プレゼンテーション資料に記載されている金額や比率の情報は、注記がある場合を除き、億円またはパーセントによる要約表示を行っております。その為、内訳の計が、合計と一致しない場合があります。

◆ **監査について**

- 本プレゼンテーション資料は、監査法人による監査の対象外です。



# 2017年度 上期業績 概要

単位: 億円	16年度		17年度		
	上期	下期	上期	前下期比 H/H	前年同期比 Y/Y
<b>売上高</b>	<b>372</b>	406	<b>437</b>	+8%	+17%
半導体製造装置	243	260	303	+17%	+25%
計測機器	129	146	133	-9%	+3%
<b>営業利益</b>	<b>66</b>	71	<b>89</b>	+26%	+35%
半導体	44	44	64	+46%	+43%
同率	18%	17%	21%	-	-
計測	21	27	25	-5%	+20%
同率	17%	19%	19%	-	-
<b>経常利益</b>	<b>63</b>	76	<b>90</b>	+20%	+43%
親会社株主に帰属する <b>当期純利益</b>	<b>47</b>	52	<b>64</b>	+21%	+36%

Copyright 2017 Tokyo Seimitsu Co., Ltd. (7729) All rights reserved.

3

- 17年度上期(4-9月)は、半導体の上振れを主因に、増収増益の着地  
 売上高 437億円 (半導体製造装置 303億円、計測機器 133億円)  
 営業利益 89億円 (半導体 64億円、計測 25億円)  
 経常利益 90億円、親会社株主に帰属する当期純利益(以下当期純利益) 64億円
- 半導体営業利益、経常利益、当期純利益は半期ベースでの過去最高益

# 2017年度 第2四半期業績

単位: 億円	2016年度				2017年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	前 四半期比 Q/Q	前年 同期比 Y/Y
<b>売上高</b>	163	209	195	211	199	238	+19%	+14%
半導体製造装置	110	133	132	128	142	161	+13%	+22%
計測機器	53	76	63	83	57	76	+34%	+0%
<b>営業利益</b>	29	37	32	39	40	49	+21%	+31%
半導体	22	22	21	23	31	33	+3%	+46%
同率	20%	17%	16%	18%	22%	20%		
計測	6	15	11	16	9	16	+86%	+10%
同率	12%	20%	17%	20%	16%	22%		
<b>経常利益</b>	26	37	35	41	41	49	+19%	+31%
親会社株主に帰属する <b>当期純利益</b>	19	28	14	39	29	35	+20%	+24%

Copyright 2017 Tokyo Seimitsu Co., Ltd. (7729) All rights reserved.

4

○ 2017年度第2四半期(7-9月、以下2Q)の業績概要

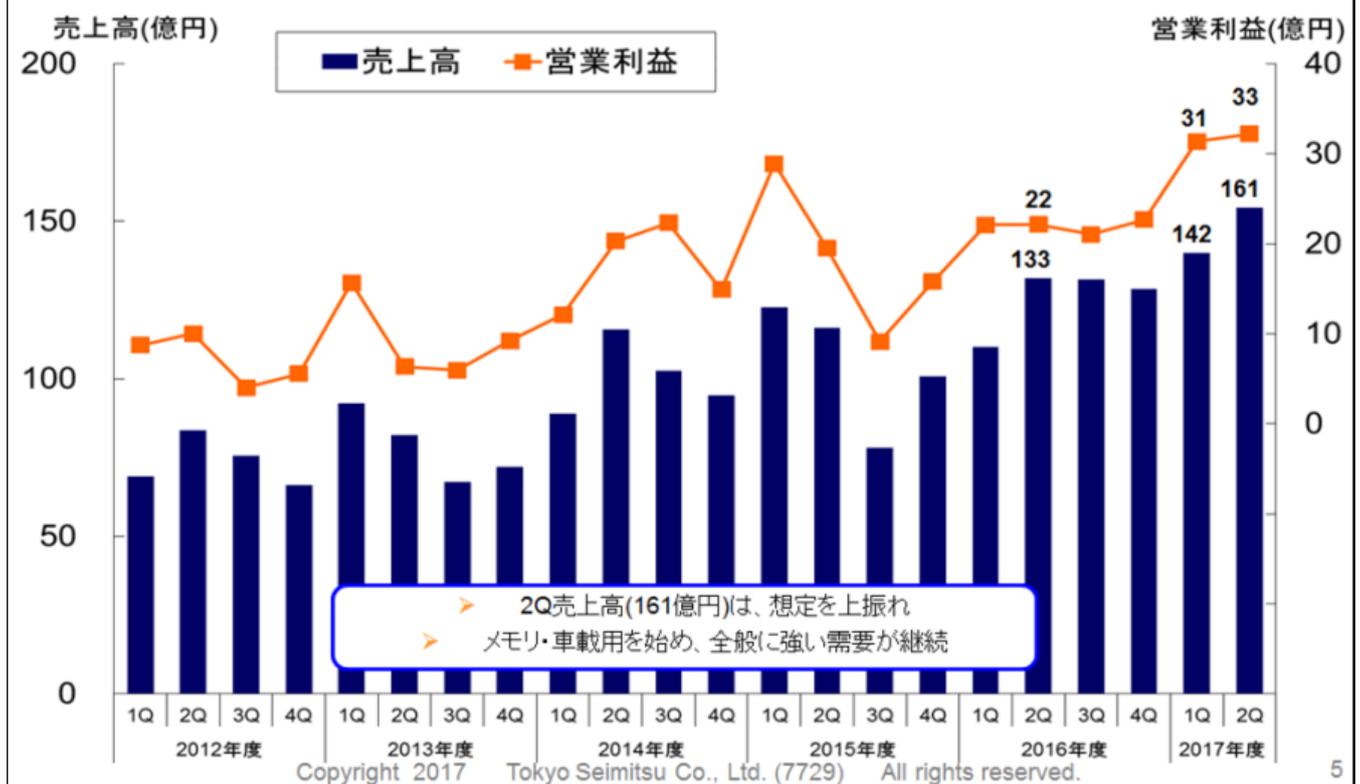
売上高 238億円(半導体 161億円、計測 76億円)

営業利益 49億円(半導体 33億円、計測 16億円)

経常利益 49億円、 当期純利益 35億円

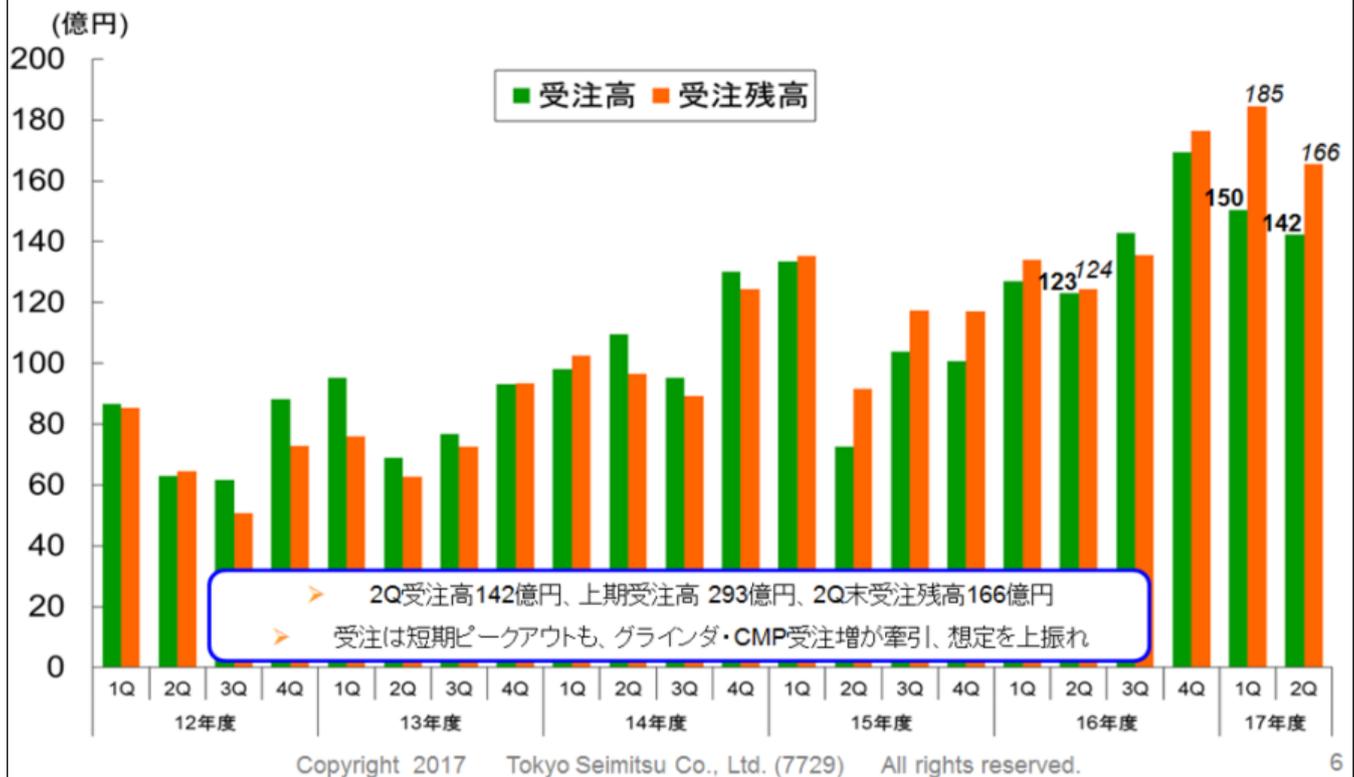
○ いずれも前四半期、前年同期比増収増益

# 半導体事業 - 売上・営業利益推移



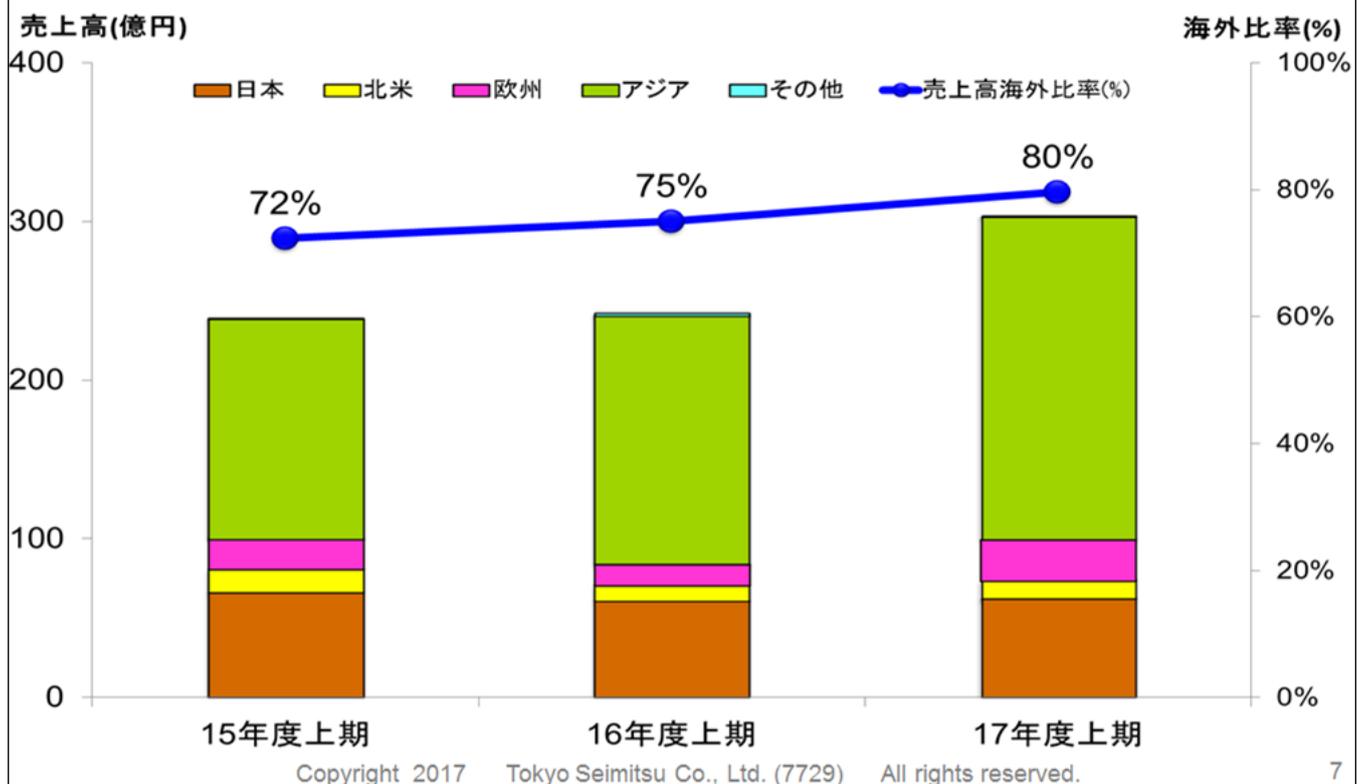
○ 2Q売上・利益とも、想定を上振れる着地

○ 装置需要が半導体・電子部品全般に亘って好調、これに伴い工場稼働率も高水準で推移



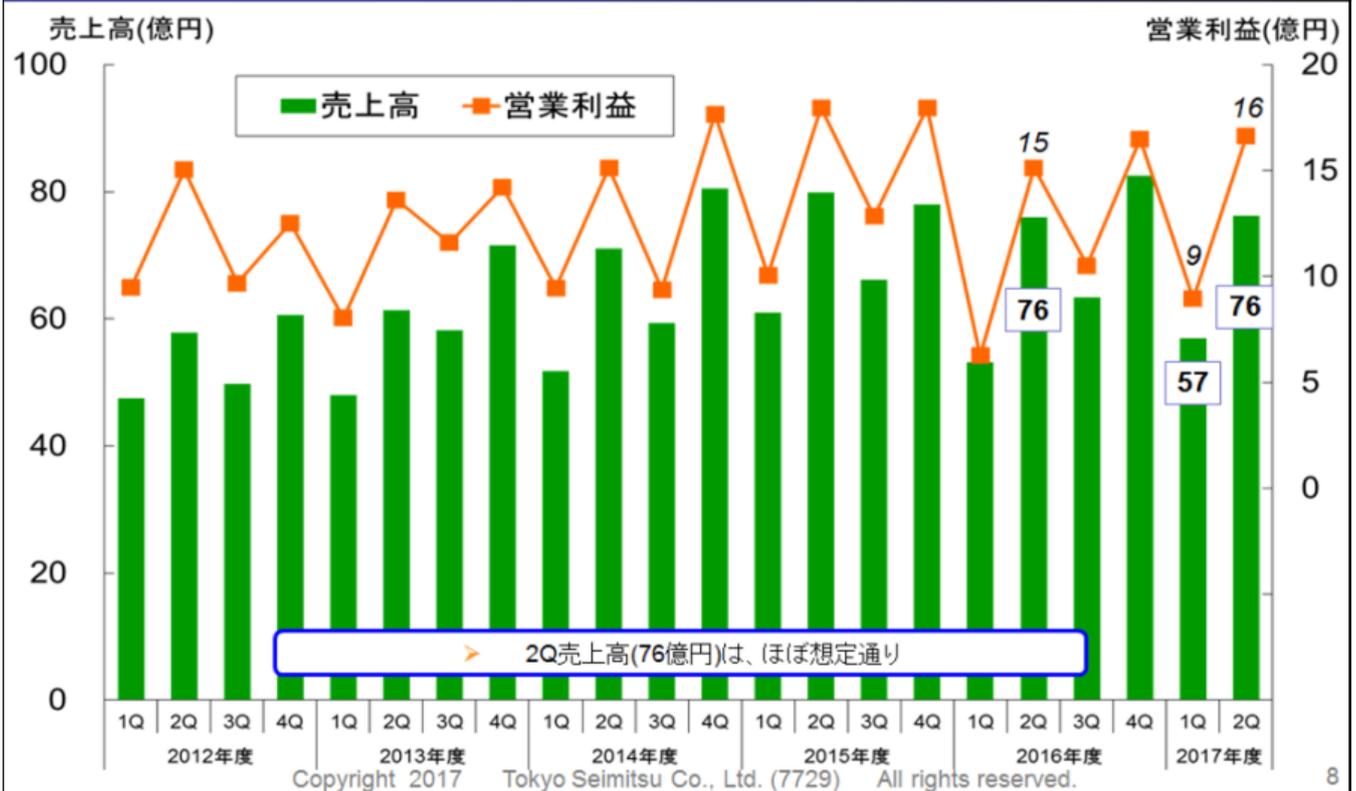
- 期初想定通り、受注は夏場にかけて短期的にピークアウトしたものの、  
グラインダ、CMP装置などの引合は堅調で、2Q受注は軽微な減少にとどまった
- 上期受注高は293億円(前年同期比 2割弱の増加)
- 2Q受注残高は166億円と引き続き高水準維持

# 半導体事業 - 地域別売上高推移



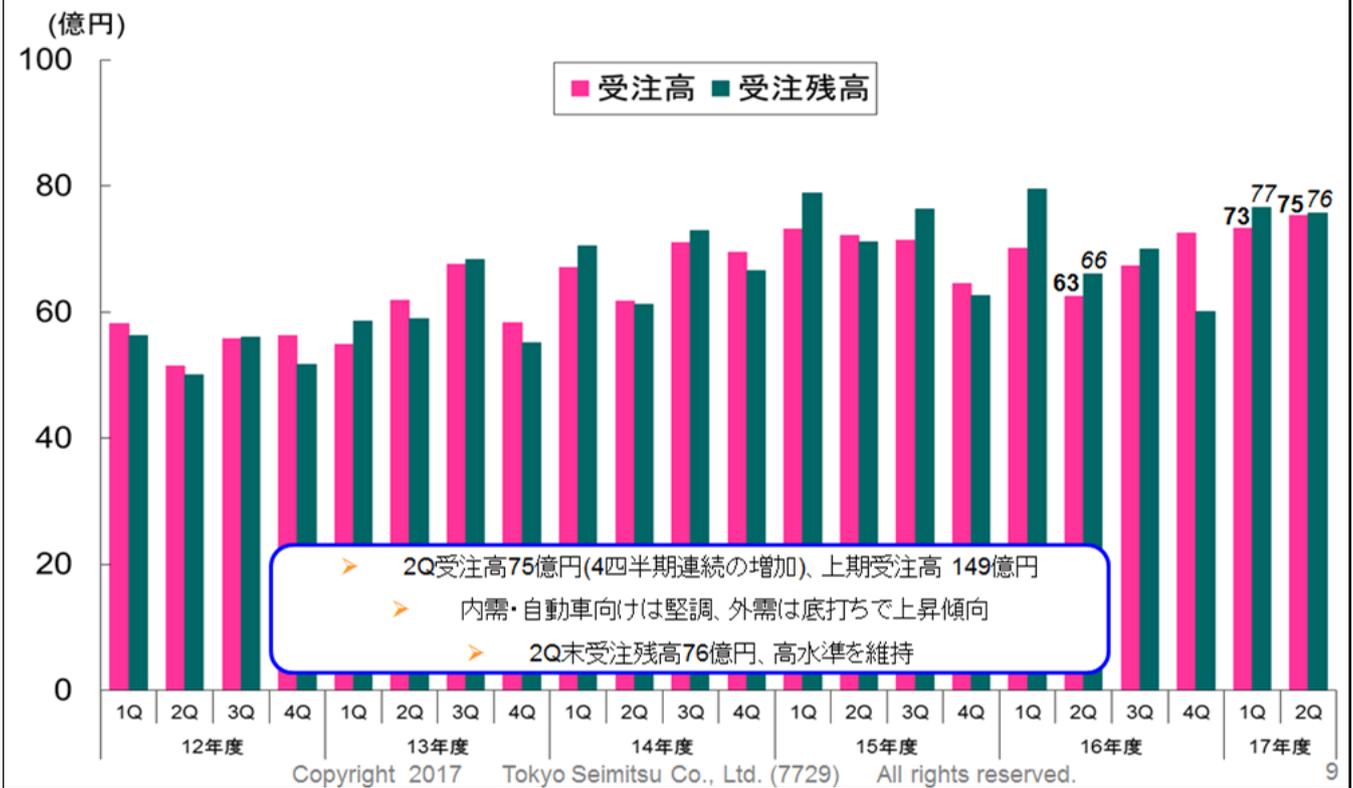
- 海外売上高比率は80%
- 国内向けが安定的に推移する一方、アジア地域向け売上が大幅に増加し、海外売上比率上昇

# 計測事業 - 売上・営業利益推移



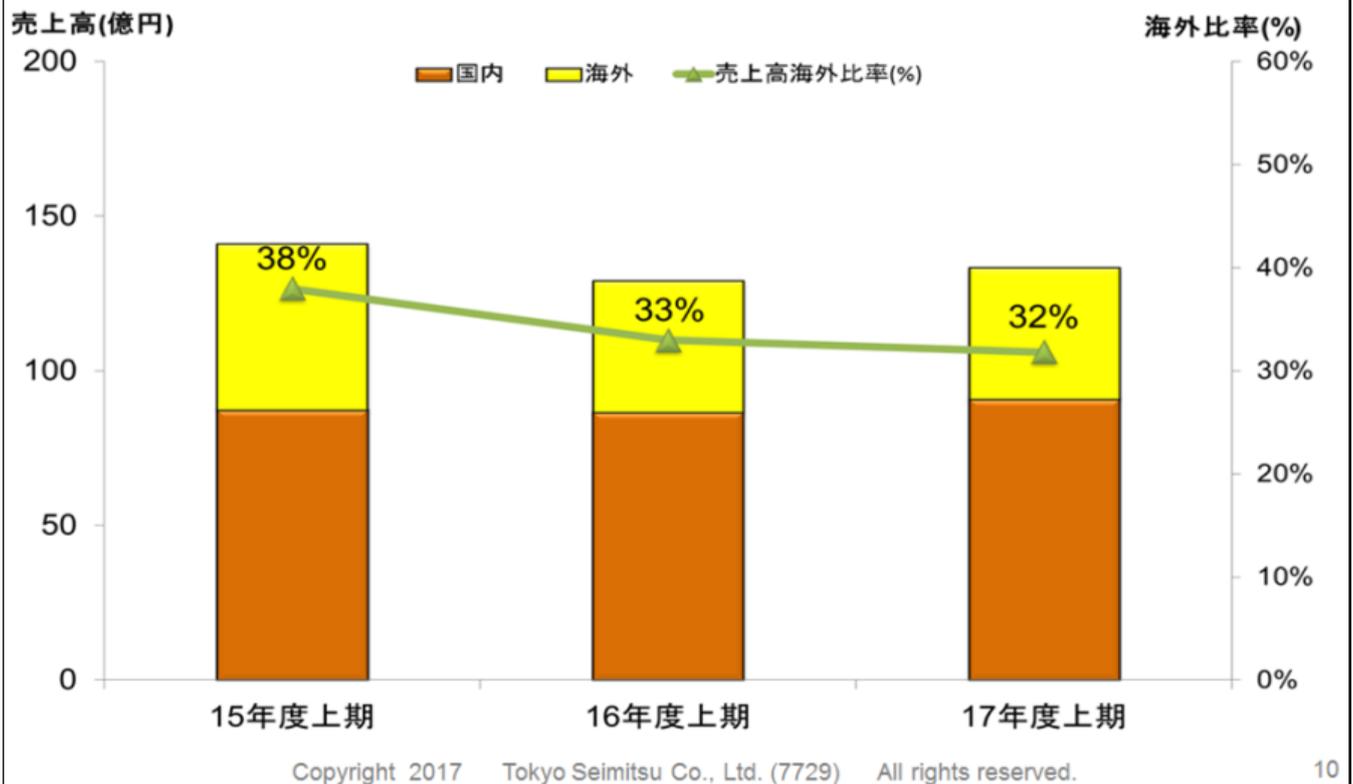
○ 2Q、上期共に想定線での着地

○ 市況回復し第2四半期から売上、利益とも回復基調 上期実績は前年同期比で増収増益



- 計測事業の2Q受注高は75億円、上期受注高は149億円
- 国内の自動車業界需要(受注全体の半分強)の堅調さに加え、海外の引合も底打ちし、4四半期連続で増加、上期は前年同期比1割強の増加
- その結果、受注残高は高水準を維持

# 計測事業 - 地域別売上高推移



- 海外売上高比率は、32%
- 海外向け売上高はほぼ前年同期並み  
国内向けが増加し、海外比率は若干減少
- 足許では海外仕向けの受注が伸びており、今後 売上に反映見込

# 2017年度 第2四半期 貸借対照表

資産 (億円)	17/3末	17/9末	増減	負債/純資産 (億円)	17/3末	17/9末	増減
現預金	339	<b>364</b>	+ 25	支手・買掛金, 電子記録債務	158	<b>198</b>	+ 40
受取手形・ 売掛金・ 電子記録債権	284	<b>311</b>	+ 27	短期借入金	13	<b>13</b>	±0
在庫	173	<b>189</b>	+ 16	その他	95	<b>82</b>	- 13
その他	32	<b>25</b>	- 7	流動負債計	266	<b>293</b>	+ 27
流動資産計	828	<b>889</b>	+ 61	固定負債計	7	<b>7</b>	+ 0
固定資産計	317	<b>341</b>	+ 24	負債計	273	<b>300</b>	+ 27
資産合計	1,145	<b>1,229</b>	+ 84	純資産	872	<b>930</b>	+ 58
				負債・純資産合計 (内有利子負債)	1,145 (13)	<b>1,229</b> (13)	+ 84 (±0)

Copyright 2017 Tokyo Seimitsu Co., Ltd. (7729) All rights reserved.

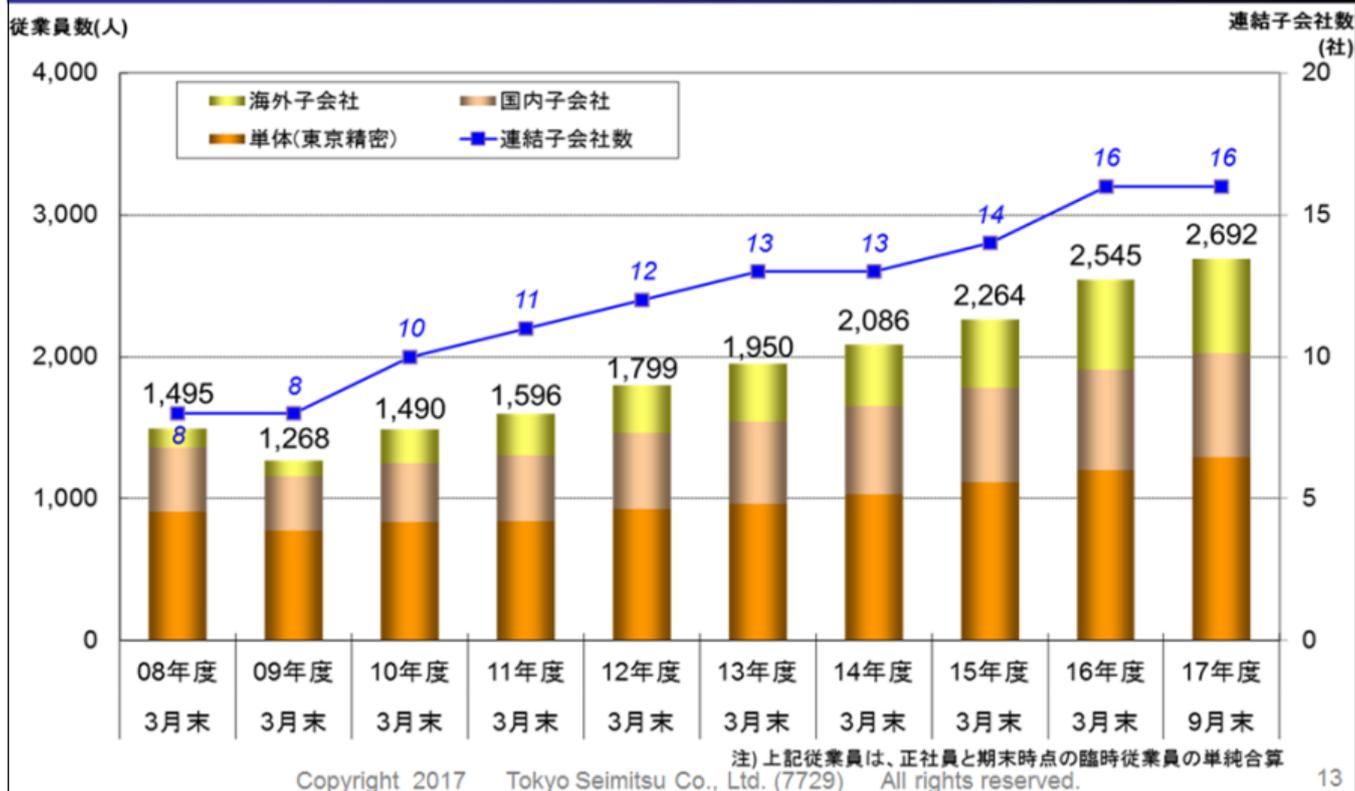
11

- 9月末の総資産は1,229億円(3月末比84億円増)
- 資産増加の内訳は  
流動資産が61億円増加(現預金25億円、売上債権27億円、在庫16億円)  
固定資産が24億円増加
- 負債合計は300億円(買掛債務増加を主因に27億円増加)
- 純資産は930億円(58億円増加)
- 自己資本比率は74.9%、9月末の有利子負債残高は13億円

単位: 億円		15年度上期	16年度上期	17年度上期
現金等 期首残高		268	273	338
営業活動	税引前・償却前利益	88	75	103
	(売上債権+在庫) - 仕入債務	- 5	27	- 5
	納税	- 24	- 19	- 40
	その他	- 4	3	10
	小計	56	86	68
投資活動		- 30	- 37	-29
フリーキャッシュフロー		27	49	39
財務活動	社債・借入	- 2	- 2	0
	株式・配当金、他	- 13	- 14	- 15
	小計	- 15	- 16	- 15
増減額(含 換算差額・連結範囲変更)		13	30	25
現金等 期末残高		281	303	364

- 上期のキャッシュフロー(以下CF)について
  - 営業CFは68億円のプラス(利益計上が主因)
  - 投資CFは29億円のマイナス(設備投資等が主因)
  - この結果、上期フリーCFは39億円
  - 財務CFは15億円のマイナス
  
- この結果、上期末の現金等の残高は364億円となった

# 従業員数推移

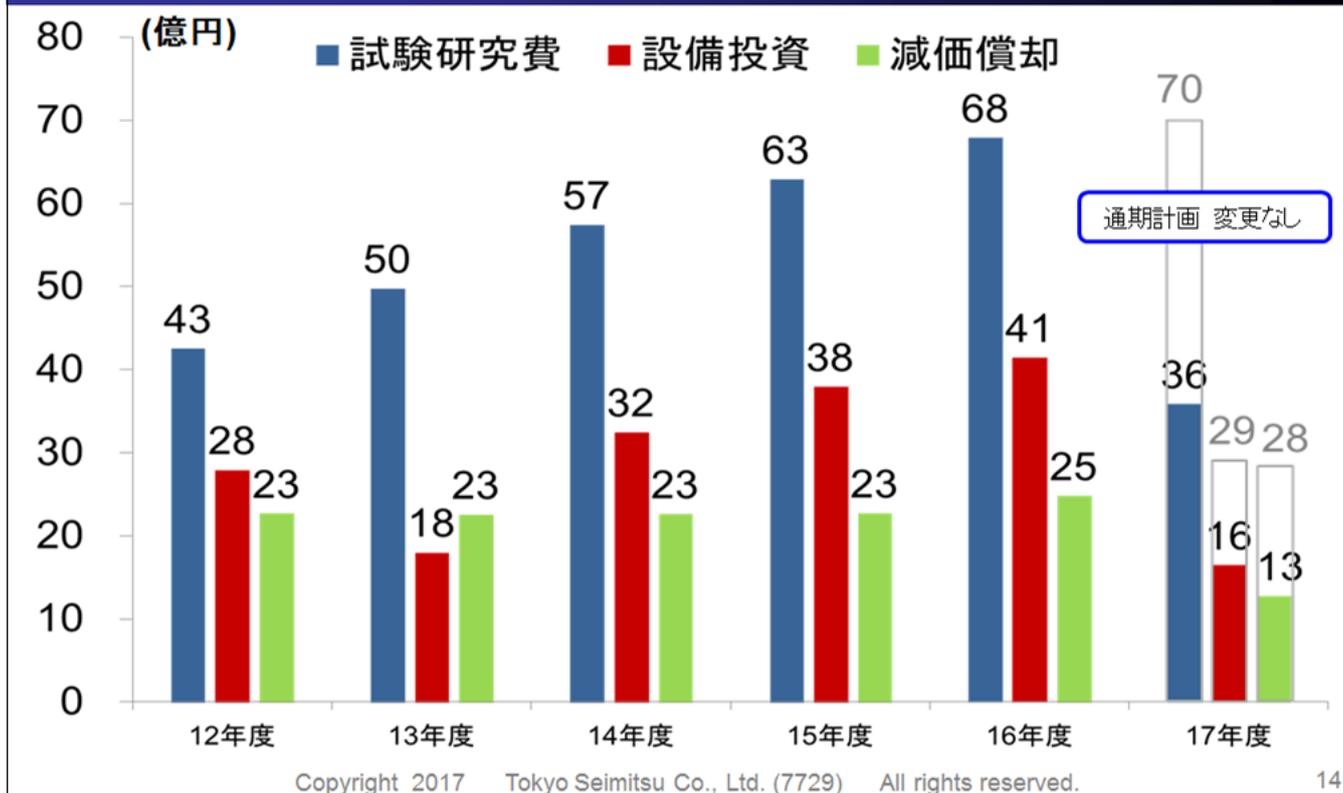


○ 9月末の連結従業員数(正社員+期末臨時従業員)は2,692名 3月末比 147名の増加

○ 増加の主な要因は、

- 半導体事業での製造・開発人員の増加
- 中国での市場拡大に伴うサービス人員の増加

# 試験研究費、設備投資、減価償却



- 上期の試験研究費実績は36億円(製品競争力強化)
- 同 設備投資実績は16億円(工作機械の更新投資など)
- 同 減価償却は13億円
- 17年度通期計画に変更なし

## ◆ 半導体製造装置

- 短期受注はピークアウト、グラインダやCMP堅調、谷は浅い
- 例年通り 年度後半の回復を予想
- 引き続きメモリ・車載・電子部品需要に期待

## ◆ 計測機器

- 国内のモノづくりは全般に堅調
- 海外向け需要(特に中国)は回復傾向
- 従来ニーズに加え、自動化/IoT用途の受注拡大に期待

- 半導体製造装置事業: 想定通りのサイクルでピークアウトしているが、グラインダやCMPが堅調で、落ち込みは従来ほど大きくない。  
例年通り 年度後半の回復に期待。(メモリ・車載デバイス・電子部品向け需要に期待)
- 計測機器事業: 国内モノづくり需要は引き続き堅調  
海外向け需要は、特に中国で回復傾向、業績押し上げ要因になることを期待  
拡大が見込まれる自動化/IoT分野での受注増にも期待



## 2017年度 通期業績予想

単位: 億円(配当除く)	16年度			17年度				
	上期	下期	通期	上期	下期 予想	通期 予想	前回 予想 対比	前年比
<b>売上高</b>	372	406	778	437	413	850	+60	+9%
半導体製造装置	243	260	503	303	267	570	+60	+13%
計測機器	129	146	275	133	147	280	±0	+2%
<b>営業利益</b>	66	71	137	89	71	160	+20	+17%
同率	18%	17%	18%	20%	17%	19%	-	-
<b>経常利益</b>	63	76	139	90	70	160	+20	+15%
親会社株主に帰属する <b>当期純利益</b>	47	52	99	64	48	112	+12	+13%
<b>1株配当</b>	34円	38円	72円	41円	41円	82円	+10円	+10円

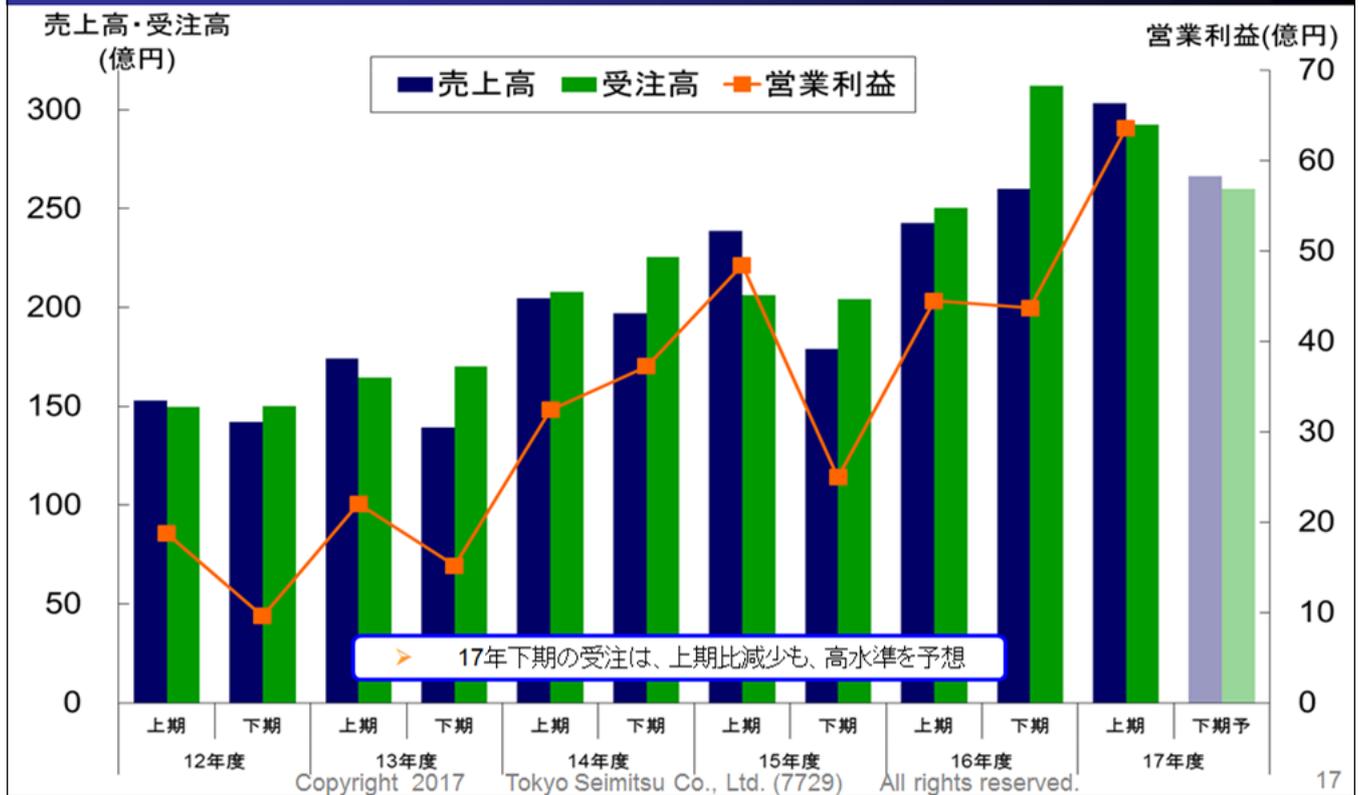
前回予想公表: 2017年8月10日

Copyright 2017 Tokyo Seimitsu Co., Ltd. (7729) All rights reserved.

16

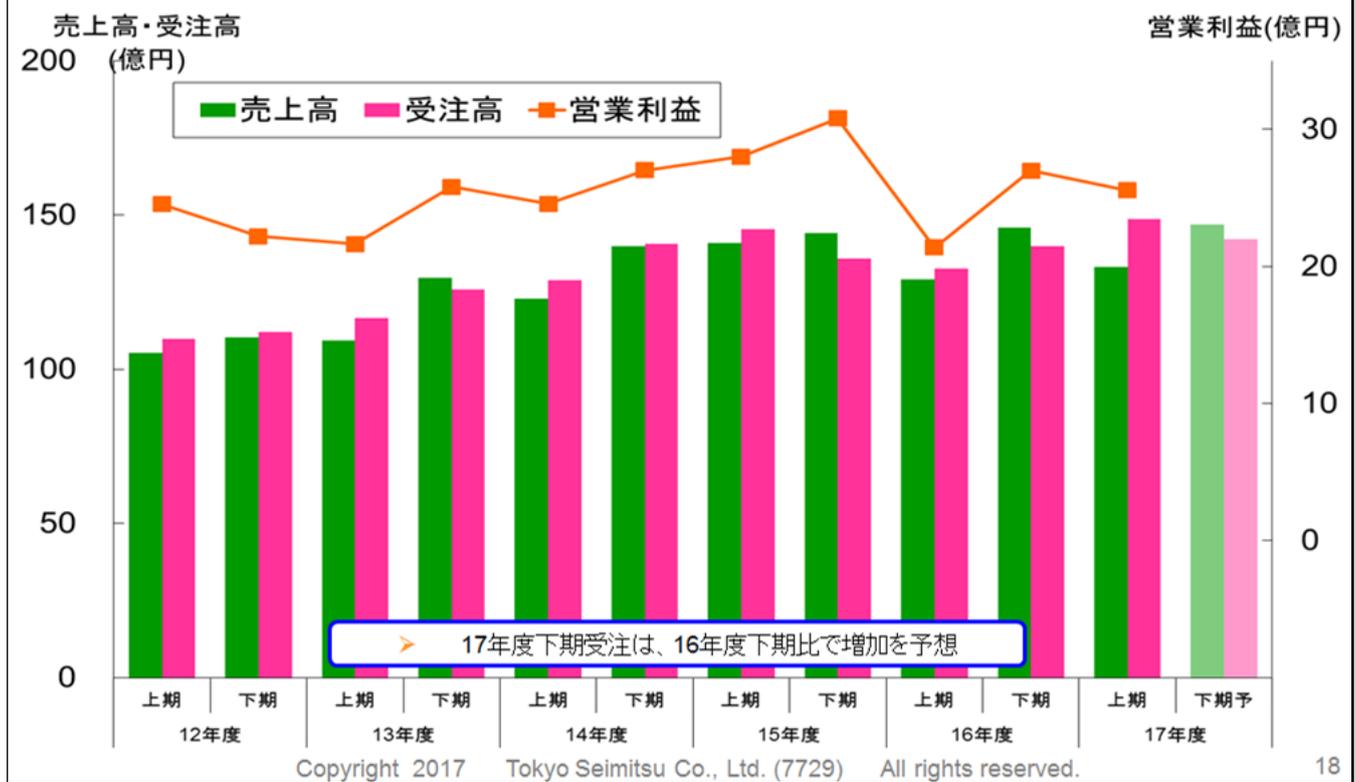
- 足許の状況(特に半導体製造装置事業)を踏まえ、17年度業績予想を修正
- 売上高 850億円、営業利益160億円、経常利益 160億円、当期純利益112億円を予想  
(営業利益、経常利益、当期純利益それぞれが過去最高益更新の予想)
- 配当方針(配当性向30%目安)を踏まえ、通期1株配当予想を72円→82円へ修正  
(詳細は、2017年11月14日公表の「業績予想並びに剰余金の配当及び  
期末配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください)

# 半導体事業 - 売上・受注高 見込



- 17年下期の半導体事業の受注高は、上期比では減少するものの、引き続き高水準を見込む

# 計測事業 - 売上・受注高 見込



○ 17年下期の計測事業の受注高は、前年同期比増を予想

**世界中の優れた技術・知恵・情報を融合して世界No.1の商品  
を創り出し、皆様と共に大きく成長してゆく**

理念を示すモットー:

**「WIN-WINの仕事で世界No.1の商品を創ろう」**  
*WIN-WIN relationships create the World's No. 1 Products*

コーポレートブランド:

**ACCRETECH**

“Accrete (共生)” と “Technology(技術)” の合成語

- 長期指標のベースにある、当社の企業理念は:  
「世界中の優れた技術・知恵・情報を融合して  
世界No.1の商品を創り出し、皆様と共に大きく成長してゆく」
- これを簡潔に表すモットー、及びコーポレートブランド  
「ACCRETECH(アクレエテック)」を掲げ、理念の実現に取り組んでいる

## 半導体 事業

- ・ 強み: 精密位置決め制御技術、内製化
- ・ チャンス: 新技術・新デバイス

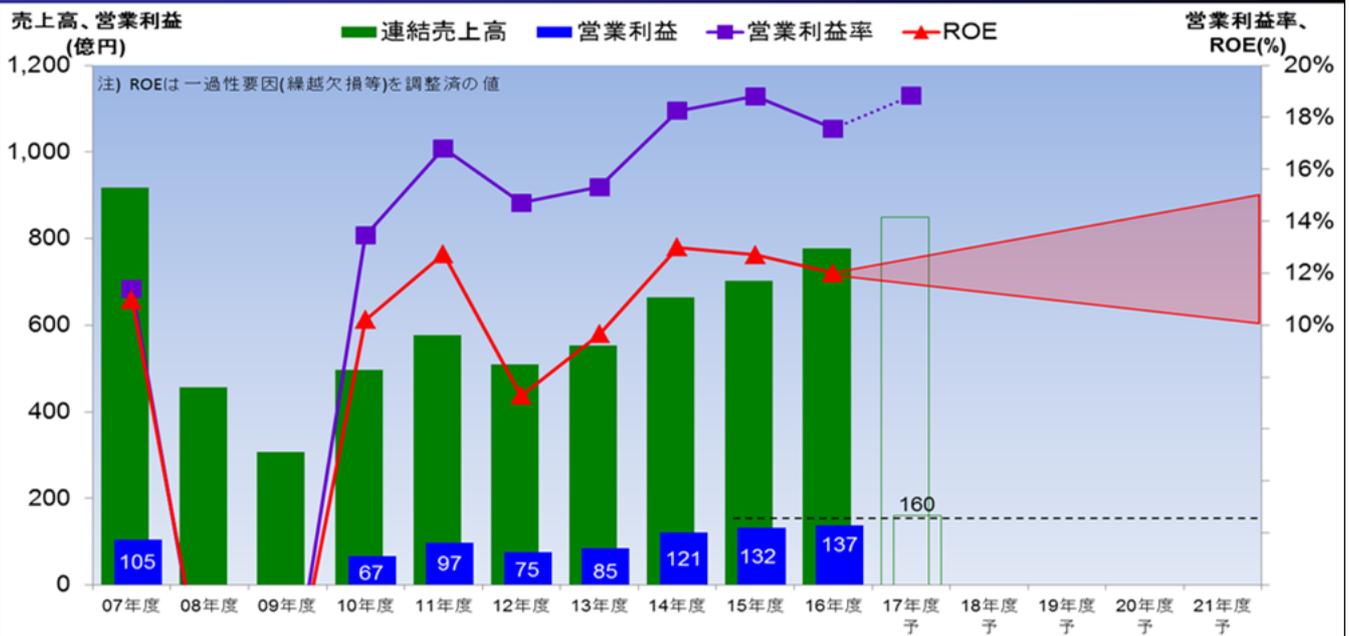
## 計測 事業

- ・ 強み: 高精度・高分解能測定技術、信頼性
- ・ チャンス: 新分野・新興国を含む海外需要

- ・ バランスの取れた事業構成
  - 異なる事業領域を有することによる安定性(需要変動影響を吸収)

- 当社の半導体事業は、精密位置決め制御技術と、内製化が強み  
半導体新技術・新デバイスなどが業容拡大のチャンス
- 計測は、高精度及び高分解能を実現する測定技術と、その信頼性が強み  
信頼性を必要とする新分野や、海外需要などが業容拡大のチャンス
- 需要の波が異なるセグメントを有する事業構成が、全社業績の安定に寄与

# 長期的な指標、中期目標



- ◆ 長期指標: ROE 10%以上の企業体質の維持
- ◆ 中期目標(~18年度): 営業利益 既往ピーク150億円の更新

- 長期指標「ROE(自己資本利益率)10%以上の企業体質を維持する」
- 中期目標(~2018年度)「営業利益 既往ピーク150億円の更新」
- 今年度業績予想は、中期目標を達成する計画

1. 主力市場に向け、製品競争力を更に高める (No.1製品)
2. 成長期待分野・安定需要分野に向け、経営資源投下



- 事業戦略の骨格に大きな変更はなし
- 半導体・計測両事業に共通する戦略の骨格は、  
主力市場に向け、製品競争力を更に高めてゆくこと  
成長、または安定需要が期待される分野へ資源を投下すること

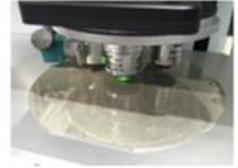


- ◆ 半導体市場は「繋がる」を軸に 構造的な成長フェーズへ
- ◆ これらに必須なメモリ・車載・電子部品に対し、当社製品の強みを最大化する

Copyright 2017 Tokyo Seimitsu Co., Ltd. (7729) All rights reserved.

23

- 半導体市場は、「繋がる」を軸に、構造的な成長フェーズにある
- その中で増加してゆくのは、メモリ・車載デバイス・電子部品の需要
- これらを 製造する装置への要求を、個別の製品、要素まで落とし込み、実現し続けることで強みを最大化させる戦略



## 新製品による 売上の拡大

安定・成長業界への製品投入  
光学測定機の拡販

## 海外における 売上の拡大

自動化やIoTへの対応  
世界への拡販を狙った  
ラインナップの拡充

## 継続的な売上と利益の拡大

Copyright 2017 Tokyo Seimitsu Co., Ltd. (7729) All rights reserved.

24

- 計測事業の戦略は大きく分けて2つ
- 新製品売上の拡大：安定・成長する業界への製品投入と、光学測定機器の拡販
- 海外売上の拡大：自動化・IoT(モノのインターネット)対応と世界への拡販を狙ったラインナップの拡充



東京精密は  
アクレーテクです